

# 「アプローチカリキュラム」作成方法概要

## ステップ1：アプローチカリキュラムの育みたい内容の検討

自園の5歳児・年間指導計画の接続期部分（5歳児後半の10月～3月）を参考にし、園で目指す子どもたちの姿が、「町田っ子像」・8つの具体的視点のどれに当てはまるかを検討し、アプローチカリキュラムの「育みたい内容と活動例」欄に書き出します。

すでに園で作成している年間指導計画等にあるそれぞれの時期の園の「ねらい」を当てはめます。8つの具体的視点に落とし込むことで、もともとの「ねらい」から、接続を意識した「ねらい」へと整理をしていきます。また、小学校教員と、子どもの姿や育ちを見る視点を共通化し、小学校教員と共有しやすくします。各々の視点について、子どもの育ちが小学校へどうつながっていくか意識してください。

## ステップ2：アプローチカリキュラムの活動例の検討

育みたい内容に書かれたものをもとに、活動を検討し記入します。

園での「ねらい」を達成するために行う具体的な活動内容を記入します。活動内容をすべて挙げる必要はなく、「ねらい」に沿った活動内容をいくつか例示として挙げれば足ります。（詳細は月案、週案で記載していきます。）

## ステップ3：「10の姿」とのつながりを検討

書き出した内容が「10の姿」のどれにつながるかを考え、記入します。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、幼児が身に付けていくことが望まれるものを抽出し、具体的な姿として整理されたもので、保育者と小学校教員が共有できるようにしています。町田市としての「町田っ子像」・8つの具体的視点に沿って書き出した「ねらい」と活動内容に対して、「10の姿」とのつながりを確認します。

アプローチカリキュラムシート

10月 11月 12月 1月 2月 3月

育みたい内容と活動例

記入箇所

記入箇所

施設間での取り組み  
家庭との連携

## ステップ4：指導計画の作成・見直し

「町田っ子像」・8つの具体的視点の中で記述のなかった箇所や「10の姿」があれば、その部分を補うために自園でどのような取り組みをするかを検討し、見直しをします。

完成したら、それをもとに年間指導計画の見直しやアプローチカリキュラム対象期間（5歳児後半の10月～3月）の月案の作成を行います。

最後に、「育てたい内容と活動例」や「10の姿」を踏まえ全体を確認します。（「ねらい」や活動内容に偏りがあるか、などを確認します）「施設間での取り組み、家庭との連携」欄も記入します。

アプローチカリキュラムは、「年間指導計画等」と月案・週案の間のもので位置付けているため、完成後は月案・週案に反映していきましょう。